

第1学期始業式式辞（令和7年4月8日）

皆さん、おはようございます。いよいよ今日から、101年目の大洲農業高校が始まります。そして、今日の午後は、新入生66名を迎える予定です。高校生活は、よく、1年目は試みの年、2年目は充実の年、そして、3年目は完成の年、と言われます。2年生の皆さんには後輩ができて、自分自身の高校生活を、昨年度以上に充実させてほしいですし、3年生となる皆さんにとっては、いよいよ高校生活も最後の年になります。部活動をはじめとするいろいろな活動にとって完成の年、としてほしいですし、進学・就職についても納得して終わる一年としてほしいと思っています。そのために、チャレンジ精神を忘れないでほしいと思っています。そこで、今日は皆さんに、動物の象の話、「エレファント・シンドローム」の話をしたと思います。

サーカスなどで象を調教するときに、象の足を鎖につないで、もう片方をとても丈夫な杭につないでおきます。すると、鎖が届く範囲は円の形になります。象はその範囲は移動できますが、その範囲を越えようとしても出ることができず、やがてあきらめてしまいます。その状態をしばらく続けると、その象はどうなると思いますか。真ん中の太い杭を変えて象ならば簡単に引っっこ抜ける細い枝のようにしても、その象は決して繋がれた鎖の範囲から出ないといえます。このようにして、飼育者は象を管理しているそうです。

この「エレファント・シンドローム」は、自分の限界を自分で決めてしまったために、本来持っている力を発揮できないことの例です。

もしかすると皆さんの中にも、「自分ならまあこんなものだろう」という基準を持っている人はいませんか。もしいるとすれば、その基準は、この象と同じように、過去の体験から自分の限界を設定したものです。

高校生である皆さんが、自分の枠を決めるにはまだまだ早すぎます。では、自分の可能性を広げるにはどうすればよいか。自分自身の可能性を超えるきっかけが、これからの1年間の学校生活の中でいっぱいあります。ぜひ、いろいろなことにチャレンジして、限界突破を図ってください。

はじめにも言いましたが、今日から、3年生は最高学年になり、2年生は中堅学年となります。先輩となる皆さんが、チャレンジ精神を持って自分の可能性を広げていることは、1年生にとって頼もしく映ります。皆さんもそうだったと思います。1年生は、自然に先輩の姿を見えています。

皆さんの学校生活がより充実したものになり、全校生徒にとって居がいのある、活気のある学校になることを期待して、式辞といたします。